



伊藤小児科・内科医院 病児保育園

おひさまだより

令和7年12月1日発行

横浜市婦気大堤字谷地添7-1（伊藤小児科・内科医院敷地内）

TEL 0182-23-6477（予約・キャンセル・お問合せ専用）

ホームページ <http://www.ohisama-itocl.net/>



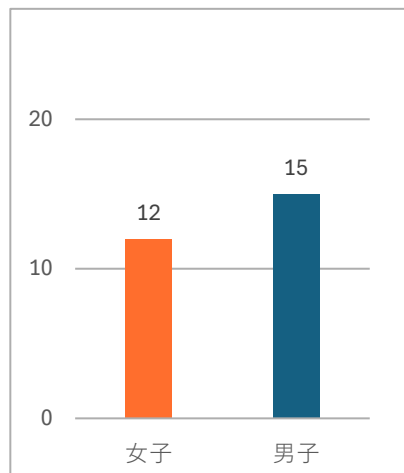
本格的な寒さに冬の訪れを感じる時期になりました。今月はクリスマスや年末行事などが控えており、子どもたちにとって一番楽しみな月かもしれませんね！おひさまでもクリスマスツリーや季節に応じた壁面を飾り、12月ならではの雰囲気子どもたちと一緒に楽しんでいます。ご利用の際にはサンタさんへのお願い事をクリスマスツリーに飾ってみてくださいね♪

気温・湿度共に低くなるこの時期は、感染症も流行りやすくなりますので、感染対策をしっかり行い、寒さに負けず元気に過ごしましょう。

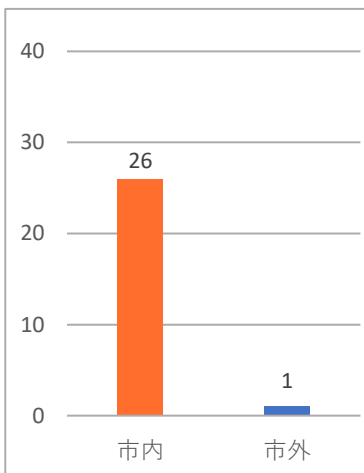
先月の病児保育園おひさまのご利用状況は以下の通りです。伊藤小児科・内科医院の感染症状況もあわせてお知らせいたしますので、どうぞご参考にしてください。

病児保育園おひさま 利用者状況 11月分

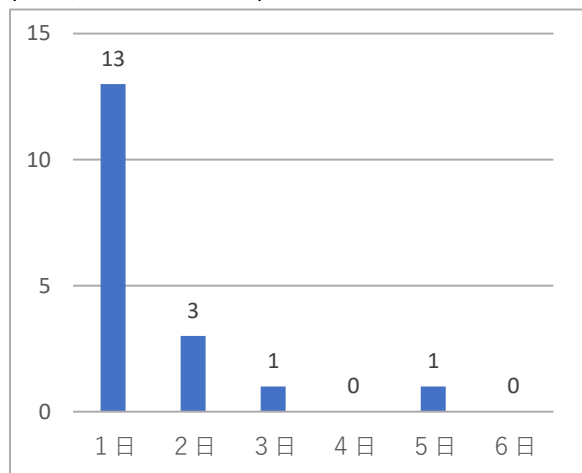
〈性別〉



〈住まい〉



〈連続利用日数〉



〈疾患名〉

	0歳児	1歳児	2歳児	年少	年中	年長	小学生	合計
インフルエンザA	2	2	0	4	0	4	4	16
風邪	0	5	0	3	0	2	1	11
合計	2	7	0	7	0	6	5	27



※ 併発している疾患もすべて含む。

	第一週	第二週	第三週	第四週	第五週	合計
インフルエンザA	12	70	220	387	194	883
インフルエンザB	0	0	0	0	0	0
RSウイルス	0	0	0	6	6	12
咽頭結膜熱	0	2	1	4	3	10
溶連菌感染症	0	0	3	0	2	5
マイコプラズマ肺炎	0	2	3	5	2	12
便アデノウイルス	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0
新型コロナウイルス	0	2	5	3	1	11
百日咳	0	0	1	0	0	1
合計	12	76	233	405	208	934

解熱剤、正しく使って

風邪で高い熱が出ると心配になるものですが、発熱は体が病原体と戦うための生理的な反応。熱を下げることで治りが早くなるわけではありません。

どんなときに使う？

熱で寝つけない、飲んだり食べたりできないときに飲ませましょう。

ただ単に熱があるからと飲ませるのではなく、「睡眠をとって体力を回復させるため」「水分をとって脱水を防ぐため」など、必要なときに使いましょう。



熱が下がれば大丈夫？

効果が切れたらまた熱が上がります。解熱の判断は24時間以上熱が出ないときです。

解熱剤の効果で熱が下がるのは5～6時間ほどで、効果が切れたらまた熱が上がることがほとんどです。引き続き様子を見て、静かに過ごさせましょう。解熱剤で熱を下げて無理をさせると、かえって病気が長引くおそれがあります。



伊藤先生コラム

熱性けいれんについて

11月現在、秋田県内は各10年で最も大きなインフルエンザの流行に見舞われています。当院でも多い日で1日100人以上のインフルエンザの患者さんを診断しています。乳幼児のインフルエンザで最も怖いのが脳症ですが、頻度が多いのは熱性けいれんです。

熱性けいれんは、乳幼児の10人に1人は経験します。平熱から急激に熱が上がる際に起きます。保育園でけいれんが起きたら救急要請が無難です。熱性けいれんの既往がある園児はきちんと把握し、発熱したときの対応（ダイアアップ座薬の使用等）はあらかじめ、保護者と決めておきましょう。園で座薬の使用が必要な場合は主治医の指示書が必要です。

